

災害発生時の茨城 JRAT 対策本部を附属病院内に設置

茨城災害リハビリテーション支援協議会：茨城 JRAT（羽田康司会長：筑波大学附属病院リハビリテーション部部長）と茨城県との間で、災害時のリハビリテーション支援活動に関する協定が令和7年3月24日に締結されました。

この協定の締結により、発災時には茨城 JRAT 災害支援対策本部が筑波大学附属病院内に設置されることになります。昨年の能登半島地震における茨城 JRAT の災害支援活動が認められたことが、当該協定締結につながりました。

筑波大学附属病院では、DMAT、DPAT チームも保有しており、今後も医療を通じた災害時の支援活動に尽力して参ります。

【JRAT (Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team)】

JRAT（日本災害リハビリテーション支援協会）の目的

JRAT は、東日本大震災をきっかけに発足しました。大規模災害発生時に、障害者・高齢者など被災者・要配慮者等の生活不活発等や災害関連死を防ぎ、早期自立生活の再建・復興を目指し、フェーズに合わせてリハビリテーション医学・医療支援を行うことを目的としています。 茨城 JRAT <https://ibaraki-ot.org/jrat/>

JRAT の活動

避難所では、災害による混乱や環境の変化により、生活が不活発になるため、体の機能や認知機能の低下、呼吸・循環器疾患、深部静脈血栓症（DVT）、ロングフライト（エコノミークラス）症候群などが起こりやすくなります。JRAT では、災害関連疾患の予防・対策や、避難所をより生活しやすい環境にするために、避難所の評価・整備、福祉用具の手配・活用などを行っています。JRAT の構成メンバーは、リハビリテーション医、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、看護師、ケアマネジャー、義肢装具士、医療福祉関連職などです。

茨城 JRAT 初の県外派遣

昨年の能登半島地震においても、茨城 JRAT では、支援メンバーを派遣しました。茨城 JRAT の県外活動は発足以来、初めてとなりました。

- ・2月 6日－8日 1隊4名 輪島市（医師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）
- ・2月12日－14日 1隊5名 輪島市（医師、理学療法士2名、作業療法士、言語聴覚士）
- ・2月14日－16日 1隊4名 珠洲市（医師、理学療法士3名）
- ・2月25日－27日 1隊4名 輪島市（医師、理学療法士2名、作業療法士）

問い合わせ先

筑波大学附属病院リハビリテーション部
副部長 清水如代（しみずゆきよ）
029-853-3795

茨城 JRAT <https://ibaraki-ot.org/jrat/> より



筑波大学附属病院 HP

茨城 JRAT 初の県外支援活動出発式で筑波大学附属病院羽田康司教授が激励

<https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/2024/26179/>



厚生労働省より茨城 JRAT に感謝状の贈呈

<https://www.hosp.tsukuba.ac.jp/2024/29307/>

